



2024年2月 NO.2

合同会社IアンドS

福岡市中央区大名 2-10-1 A1208

TEL092-791-1498 Fax092-791-1641

月の世界へ

【世界初ピンポイント着陸】

昨年9月に打ち上げられた宇宙航空研究開発機構（JAXA）の小型月着陸実証機「SLIM（スリム）」が1月20日、月面に到着しました。

従来の月探査機の着陸誤差が数キロから数十キロだったのに対し、目標との誤差約55mのピンポイント着陸、障害物を避ける前までの推定誤差は5m以内という極めて高い精度です。

メインエンジンの脱落で予定外の着陸姿勢となり、太陽電池パネルに太陽が当たらず発電できないアクシデントがあったものの、太陽の向きが変わり発電再開となりました。

今後、岩石の詳細な成分を調べ、月の起源の解明などに繋がる成果が期待されます。スリムプロジェクトに関しては、JAXA 公式アカウントがX（旧ツイッター）でも状況を発信しています。

なお、Xのコメントによると2月1日以降スリムはしばらく休眠に入るとのことです。



【超小型の月面ロボット誕生】

JAXA、タカトミー、ソニーグループ、同志社大学の共同開発で生まれた、超小型の変形型月面ロボット SORA-Q が活躍しました。

野球ボールサイズの SORA-Q は、着陸機スリムから球体のまま放出され、月面に着陸すると、走行可能な月面ロボットへと姿を変え、搭載されたカメラで着陸機や周囲を撮影しました。

およそ8センチの球体が月面に降り立つと左右に展開、頭部が立ち上がり変形。転倒しても正位置に復帰し、平地だけでなく傾斜地も走行可能です。知恵と技術がぎゅっとつまった、可愛らしく頼もしい SORA-Q は、ミッションを終えると挙動を停止し、月に残るといことです。

月面ロボットを自宅で疑似体験できるように、月面で活動している機体と同じ大きさ、同じ変形、同じ動きを再現したモデルが発売されています。

無料の専用アプリで操作するそうです。



(タカトミー HP より)

海からの応援

【フェリー2隻 七尾港接岸】

能登半島地震の被災地へ、防衛省がチャーターする民間フェリー2隻が派遣されました。被災者の休養施設として大型フェリー「はくおう」が、被災市町に派遣されている自治体職員の災害対策拠点等として高速フェリー「ナツチャンWorld」の2隻が接岸しています。



「はくおう」は、2016年の熊本地震でも休養施設として使用し、今回も被災者が休養できるように、宿泊、食事、大浴場での入浴を提供しています。

キャッシュレス化拡大

【福岡県4月から】

コロナ禍を経て、キャッシュレス化が大きく進み、スーパーやコンビニ、郵便局や市区町村の窓口でもキャッシュレス決済が普及しています。

この4月からは県でも、納税証明書の交付申請等639種の手続きについて、キャッシュレス決済を導入することとなりました。

決済方法はクレジットカード、交通系・流通系電子マネー、スマホアプリのQRコード決済などです。

県立プールや県立美術館など、すでに導入しているところもありますが、今後さらに加速するものと思われます。



念じれば伝わる

【初のヒト臨床開始】

米国の実業家イーロン・マスク氏は、自身らが設立した医療ベンチャーにて「脳内に電子チップを埋め込む臨床試験」を開始したと発表しました。

2023年5月にアメリカ当局から臨床試験の実施許可を得て、同9月に参加者を募集、今年1月末に1例目の患者への手術を実施したとしています。

脊髄損傷や筋萎縮性側索硬化症(ALS)で両手足が動かせなくなった人が、人との意思疎通やウェブ閲覧など、日常生活の重要部分を取り戻すことを目標としています。

試験は安全性を検証するという最初期段階で、有効性を判断するには厳密な科学的評価が必要になります。

